

令和6年度 すくわくプログラム活動報告



明星幼稚園 「めばえの時間」
学びの園庭整備事業 2024年度 実施報告

2025年3月



学びの園庭整備 計画（2023年度-2026年度）	2
学びの園庭整備計画（案）（2023年度-2026年度）	3
STEP 1 2023年度の実施内容（2024年 3月実施）	4
STEP 2 2024年度の主な実施内容	5
STEP 2 2024年度 各月の園庭整備 作業内容	6
STEP 2 2024年度の取組（園庭整備の状況）	7
STEP 2 2024年度の取組（教育プログラム・ワークショップ等）	8
2024年度 本事業の効果と評価（教員向けアンケート結果から抜粋）	9
2024年度 園庭整備の課題と改善点	10
STEP 3 2025-2026年度 東側園庭の整備計画（案）	11
STEP 3 2025ー2026年度のスケジュール(案)	12
まとめ	13

学びの園庭整備計画（2023年度-2026年度）

目 的	「学びの園庭」構想のもと、園児が自然とふれあいながら主体的な学びを深める環境づくりを行う。 野菜栽培や昆虫観察などの体験型学習を取り入れ、好奇心や探究心を育む。 教職員・保護者・専門家と連携し、持続可能な園庭整備を目指す。
内 容	野菜栽培や昆虫観察ができる花壇、季節変化を感じられる小道を整備し、一年を通じてあそびが学びになる「学びの園庭」を整備する。 教職員や保護者とともに専門家の支援・協力を得ながら進める。
効 果	幼児期に好奇心と探究心を育む環境を整備し、豊かな自然体験を提供することで、子どもたちの将来の学びにおいて必要な科学的な思考力・表現力の基盤を築く
スケジュール	STEP 0 2023年度 10月 園庭整備に関するアンケートの実施 STEP 1 2023年度 2月~3月 中庭の野菜栽培、草花遊び用の資材を購入 STEP 2 2024年度~2025年度（2ヵ年） 中庭、門周辺の植栽・小道整備、製作物の検討（観察用具、雨量計等） STEP 3 2025年度~2026年度（2ヵ年） 東側園庭の整備（憩いの森の小屋、種のライブラリ、野外図書館等）
専門家	【委託先】 KoHo natural garden design 代表: 伊能美緒 【委託内容】 植物苗、資材の調達、体験教育指導、植栽・管理等

学びの園庭整備計画（案）（2023年度-2026年度）

①学びと栽培の園庭

植物を育てることで幼児期に自然との共生を学ぶ。

自分が植えた植物の世話をしていくことで、植物の生命力、生長の規則性や不思議、枯らしてしまうなど失敗など様々な体験を通して、大切さや大変さなどを知る。

継続的に物事に取り組む力が育っていく。

植物の生長を間近でみる体験を通して得た気づきや疑問から、自然界や自然の法則について興味や関心が湧き、科学的な思考へとつながっていく。



非生分解性素材の布プランターを利用し土がわくさん入ることで栽培もしやすく安全面コスト面を配慮。

生き物とふれ合う。

蝶や昆虫が好むハーブや草花を植栽。間近で観察することでその生態や性質を体験的に知り学ぶ。食べる・食へられる関係を目の当たりにし、自然界の法則を学んでいく。

友達と協力して生き物の世話をしたり、同じ感動を味わい友達とのつながりを深めていく。



カラフルなプランターや草花をいれることで水遊びや、蝶も多種くるような植栽を入れ教養を高める植栽選び、また日々の管理を考慮して



STEP2
2024-2025

学びと栽培の園庭

②四季とともにわくわく通園路

通園までの道のりが楽しくなる植栽と自然観察の仕掛け。

四季を通じ花が咲くことで自然を楽しく身近に感じる。

蝶や鳥がやってくるような仕掛けをし生物の多様性、

連鎖を知ることで学びにつなげる。

自然の素材を使いアートの要素もより入れ

美しい景観をつくりだしていく。



四季とともにわくわく通園路



③観察と憩いの森の小屋

園庭の片隅で秘密基地のような自然観察の学びの場。

探求心からも科学的思考力を高めていく。

ゆくゆくは野外図書館も検討していく。

木陰を利用し、堆肥スペースや昆虫の住処も設置。



観察と憩いの森の小屋

循環の堆肥スペース

STEP 1 2023年度の実施内容（2024年 3月実施）

- ・ 中庭に各クラス用の野菜栽培用コンテナを設置
- ・ 五感を刺激する植栽帯の整備
 - 昆虫の集まる植物
 - 遊びに発展する植物を植栽（植付けは今年度実施）
- ・ 門周辺の植栽帯の整備
 - 園児自身が球根を植え付け 3月13日実施



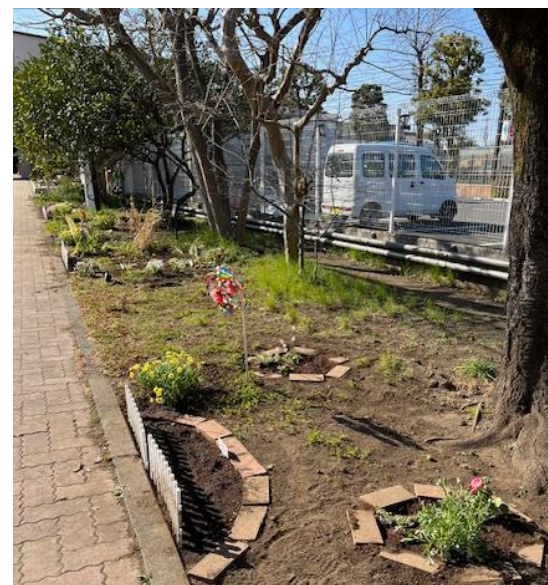
球根の植え付け体験



各クラスの野菜用コンテナ



興味関心をひくためのコンテナ



門周辺の植栽帯の整備)

5 STEP 2 2024年度の主な実施内容

中庭の充実

- ・ 各クラス用の **野菜栽培コンテナ** を設置し、園児が栽培・収穫の過程を体験。
- ・ **昆虫観察エリアの整備**：昆虫が集まりやすい植物を選定・植栽。
- ・ **五感を刺激する植栽**：香りや手触りの異なるハーブ類を植栽。

門周辺の花壇整備

- ・ 四季折々の草花を植え、園児が自然の移り変わりを感じられる場を提供。
- ・ 睡蓮鉢を設置することにより、水辺の生き物や植物の観察ができる環境を整備

体験型プログラム

- ・ **園児向け**：ガーデナー指導による「ガーデニングタイム」を毎月実施。
- ・ **教員向け**：「園庭の植物活用ワークショップ」開催（7月）。
- ・ **親子向け**：「ガーデン看板づくり」イベント（2月）。

補助金活用による拡充

- ・ 東京都「すくわくプロジェクト」活用により、**堆肥小屋（コンポスト）** や **「虫のホテル」** を設置。
- ・ 「自然循環」をテーマに、園児とともに学べるコンポストプロジェクトを推進。
→ガーデン看板づくり親子イベントを実施

STEP 2 2024年度 各月の園庭整備 作業内容

実施日	作業内容	園児とのプログラム
4月25日	プランター植栽	野菜苗の植え付け レクチャー
5月16日・22日	門周辺花壇の植栽・メンテナンス	ひまわりの種まき レクチャー
6月13日・21日	花壇・プランターメンテナンス	花・野菜の収穫 レクチャー
7月11日	花壇・プランターメンテナンス 教員向けWS 7月31日開催	ひょうたん・野菜収穫 レクチャー
8月30日	後期計画・植栽確認	お休み
9月4日・12日	花壇・プランターメンテナンス	秋野菜の種まき レクチャー
10月10日・16日	園庭手入れ、秋の花苗植え付け	お休み
11月14日・23日・ 24日・27日	園庭手入れ、花苗植え付け、コンポスト制作	球根の植え付け レクチャー
12月19日	園庭手入れ	コンポストレクチャー
1月	お休み	お休み
2月3日・5日・20日	花苗追加、手入れ作業 コンポスト看板づくり（親子イベント）2月1日開催	インセクトホテルづくり
3月	お休み	お休み

STEP 2 2024年度の取組（園庭整備の状況）



赤字：すくわくプロジェクト予算で整備 2023年度予算でイラスト作成（吉岡香織 氏）

STEP 2 2024年度の取組（教育プログラム・ワークショップ等）



園児向けの体験プログラム「ガーデニングタイム」
指導：KoHo 伊能美緒氏



教員向けワークショップ 7月31日開催
「育てて・知って・楽しんで！
園庭の植物活用 ワークショップ」講師：伊能美緒氏



親子イベント
「ガーデン看板づくり」
2月1日開催
保護者有志を募り、
17組46名の親子が参加

学びの園庭整備の成果

- 本事業の目的である「自然に親しみながら学ぶ環境の整備」は、園児たちの探究心や協調性を育む機会として成果を上げてきている。特に、園庭活動を通じて、子どもたちが主体的に自然と関わる姿勢が見られ、友達との協力や興味を持って活動に取り組む様子が教員から報告されている。また、園庭の植物や生き物に対する関心が深まり、観察力や発見を楽しむ習慣が育まれていることが確認されている。
- 園児と教員との関り方においても、「植物や昆虫について話す機会が増えた」「一緒に調べようと図鑑を見たり、植物の生長の観察や記録を意識的に行うようになった」などの声が寄せられ、学びが広がってきていることが伺える。教員にとっても、ガーデニングや自然観察の知識を深める機会となり、教育活動に活かす意識が向上してきている。

満足度

約9割の教員が「とてもよかった」「まあよかった」と回答

園庭活動における子どもたちの変化

友達と協力して活動していた5名

自ら興味をもって取り組んでいた4名

園庭活動が子どもたちの協調性や主体性の向上に寄与していることが伺えた。

教育プログラムの成果・効果（自由記述抜粋）

「子どもたちも喜んだり興味を示したりしながら参加している様子が見られてよかった」

「専門的な知識から、子どもたちの活動に活かせることを考えてくださり、嬉しかった」

「保護者の方に協力していただき、手作りの表示などは温かみがあってとても良かった」

栽培管理・スケジュール調整

- ・日当たりの影響により、一部植物の生育が不良。→植物選定や植栽場所の見直しが必要。
- ・休暇期間と収穫時期が重なり、園児が収穫できないケースが発生
→教育プログラムと連携した植栽計画の見直しが必要。

役割分担の見直し

現在、ガーデニングタイムで種まき・収穫等を行っているが、各クラスでタイミングを見て実施できるとよい。

- ・ガーデナーの役割を「環境管理と専門的アドバイザー」とし、教員が主体的に園児と関わる形に

情報共有の強化

- ・活動内容が担任に伝わるまで時間がかかっている。→事前にスケジュール共有を徹底。

保護者参加の機会拡充

- ・「希望者のみ」ではなく、定期的な保護者参加型イベントの検討。
- ・KoHo社の協力で、草木染めやお正月飾りなど「植物を活用したプログラム」を検討してはどうか。
- ・保護者の協力を得て、観察装置等の製作を検討

予算超過による影響

- ・インセクトホテル（虫のホテル）の製作費が超過
- ・ガーデニングタイムの日程調整が困難
各学年の活動日を統一できず、複数回実施した月が発生。作業費が増加したため結果として、年度末の園庭メンテナンス費が不足し、実施できなかった。

今後の対応

- ・学年ごとの日程を調整し、月1回の園庭整備日に統一。
- ・整備と園児とのプログラムの予算管理を綿密に行い、必要なメンテナンス費用を確保できるとよい。

STEP 3 2025-2026年度 東側園庭の整備計画（案）

2024年度の実施状況を踏まえて、STEP3の方針を検討

【検討事項】

①植栽帯の増設

- ・正門脇、プール脇などに植栽帯を新設し、季節の草花を植栽。

※猛暑のためコンテナ栽培は難しく、門周辺の花壇は日当たりが悪いため

②自然・環境学習の場を整備

- ・観察装置の製作・設置

製作物：根の観察、天秤、雨量計、野鳥の餌台、野外図書館など

③憩いの森の小屋

絵本の読み聞かせや、収穫物を皆で味わう場、自然観察の場として活用し、園児が自然と親しむ空間を提供する。

※東京都の補助金の活用を検討



サルナシ棚



森の憩いの場



根の観察



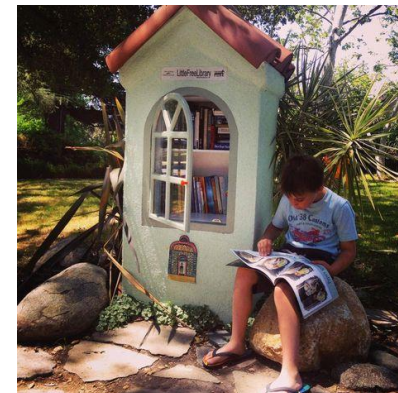
天秤



雨量計



野鳥の餌台



野外図書館

STEP 3 2025－2026年度のスケジュール(案)

- ・ 園児との体験プログラムは引き続きKoHo社の協力を得て実施。
- ・ ガーデナーは専門知識を活かし、園庭の植栽管理・アドバイザー的役割を担う
- ・ 種まきや収穫体験等は教員主導で各クラスで実施する方向に見直しを検討

		2025年度												2026年度											
	作業・検討	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	植栽帯の増設																								
2	自然観察装置の製作																								
3	憩いの森の小屋																								
4	野菜苗																								
5	種まき																								
6	球根植付																								
7	収穫体験																								
8	親子イベント				*					*							*				*				
9	植栽メンテナンス																								

園庭の「学びの場」としての寄与

- 2024年度の園庭整備では、KoHo社の協力のもと、園児が自然と触れ合いながら探究心を育む環境づくりが順調に進みました。
体験型プログラムの充実や園庭の多様な活用を通じて、子どもたちが主体的に学び、協力しながら活動する姿が多く見られました。
- 一方で、日当たりや植物の選定、教育プログラムとの連携といった課題も明らかになりました。
また、予算超過により、年度末の園庭メンテナンスを一部実施できなかったことも今後の検討課題です。
- これらを踏まえ、次年度以降は、教育プログラムとの連携強化、植物の選定・管理、予算計画の見直しを行いながら、「学びの園庭」をさらに充実させていくことが求められます。
2025年度は東側園庭の整備を進め、より多様な学びの機会を提供できる環境づくりを行っていく計画です。
- また、本園庭整備事業終了後も、日々の活動が継続できるよう、活動運営体制の整備を進め、充実した園庭活用へとつなげていくことが重要であると考えます。

